



湖議第27号
令和5年2月17日

湖西市議会議長
馬場 衛 様

建設環境委員会
委員長 加藤



建設環境委員会中間報告書

本委員会で調査した件につき、会議規則第45条第2項の規定により報告します。

建設環境委員会

活動報告

研究テーマ

環境センター焼却施設再稼働に伴うごみ処理の取り扱いについて

加藤治・神谷・中村・竹内・高柳・三上

1

目次

章	タイトル	内 容	頁
1.	はじめに	(1) テーマの選定の経緯	3
		(2) 焼却施設再稼働に伴う課題の明確化と委員会の進め方	4
2.	調査研究の まとめ	調査① 浜松市委託終了と焼却施設再稼働について ～焼却施設再稼働決定の理由(コスト面)～	5
		調査② プラスチックの可燃ごみ化について ～ごみ処理の変更点の確認～	7
		調査③ ごみ出しルールの変更について	9
		調査④ 各種計画の目標値 ～湖西市のごみの現状と目標値の考え方～	11
3.	委員会の意見・まとめ		17
4.	調査研究等の経過		19

2

第1章 はじめに

(1) テーマ選定の経緯

令和3年5月から建設環境委員会は新メンバーで活動を開始した。当時は新型コロナ対策が最優先課題であり、不要不急の外出禁止・3密禁止・マスク着用等が徹底され、議会活動・委員会活動も多くの制約を受けた。そのような状況の下、常任委員会設置の目的である「市政を分野別に分けて、詳しく専門的・能率的に審査する事」に基づき、環境部・都市整備部・消防本部から重点事業や重点項目の説明を受け、重点事業や課題を整理し、更に各部の重要課題を絞り込み、最後に2年間の取り組みテーマを全委員で検討した。

調査研究テーマ

環境センター焼却施設再稼働に伴う ごみ処理の取り扱いについて

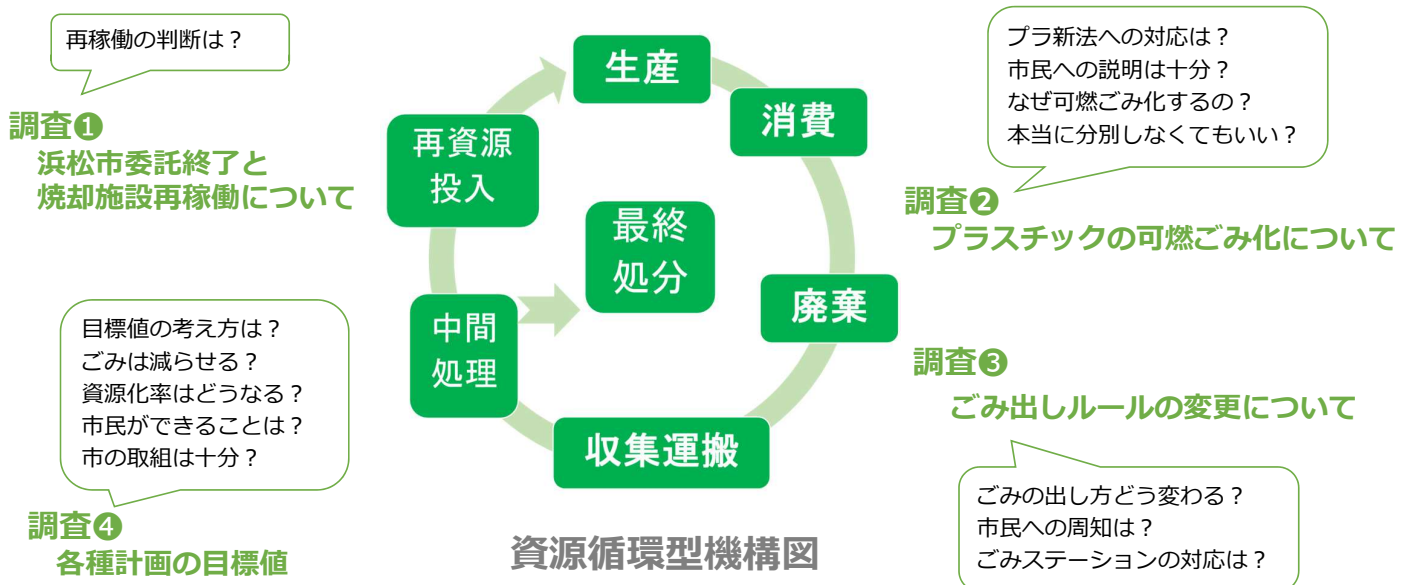
様々な委員会所管事業の中で、令和6年2月の環境センター焼却施設再稼働については、ごみ減量市民会議等において十分に議論を経て決定されてきている事項ではあるが、ごみの出し方など市民の身近な問題として最も大きな影響があるとの考えから、調査研究のテーマとして決定した。各種変更点や市の取組が、今後の市民生活にスムーズに運用されるよう、経緯の再確認や現状の理解を深め、市民目線において考えられる課題等を調査研究の過程において当局に迅速に伝えていくこととした。

部	課	重点・課題など
環境	環境	臭気対策
	廃棄物対策	環境センター焼却施設再稼働
	水道課	新水道経営戦略
	下水道	下水道事業経営戦略
都市整備	土木課	大倉戸茶屋松線整備
	都市計画	立地適正化計画
	建築住宅	空き家対策
消防	消防総務	新消防庁舎建設

3

(2) 焼却施設再稼働に伴う課題の明確化と委員会の進め方 ★①②③④について調査

湖西市の現状（焼却施設再稼働の経緯の再確認とごみ処理の全体の流れ）と課題について調査・確認を行った。



4

第2章 調査研究のまとめ

再稼働の判断は？

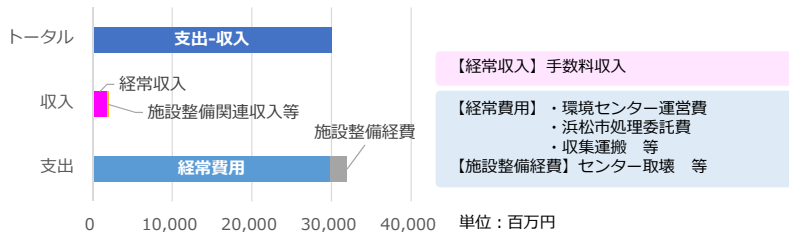
調査① 浜松市委託終了と環境センター焼却施設再稼働について

～焼却施設再稼働決定の理由(コスト面)～

疑問

確認ポイント：委託継続と焼却施設再稼働（自前処理）の全体コスト構造比較 ※H30-H55試算（廃棄物対策課資料より）

■ 浜松市委託継続の場合 (H30～H55試算)

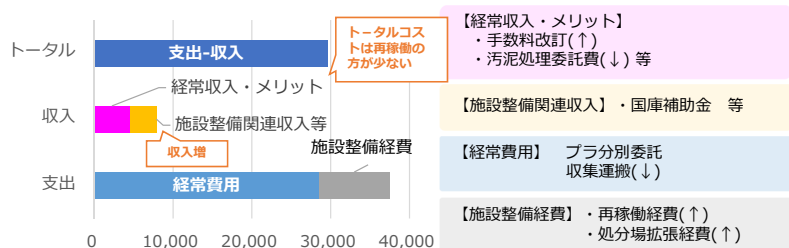


調査結果

環境センター焼却施設再稼働決定に至った理由の一つであるコスト面について再確認をした。H29年度の検討当時には経常経費、施設整備に係る支出は増加するものの、国補助金収入などにより**トータルコストは自前処理の方が低くなると試算**していた。

また、可燃ごみについては広域処理の方がコスト削減できるとして浜松市に委託をしてきたが、ごみ減量の努力をし続けても委託単価が徐々に引き上げられてきていることから、処理委託継続はコスト面での効果(メリット)が薄れてきている。ほか、焼却施設再稼働によりコスト面以外のメリット（災害時廃棄物処理体制の確保など）がある。

■ 焼却施設再稼働の場合 (H30～H55試算)



浜松市委託単価の増額の経過	単価
H22.10.1	20,500円/t
H28.10.1	25,050円/t
R1.10.1	25,300円/t

5



環境センター視察の様子(R3.8.5)

調査② プラスチックの可燃ごみ化について ~ ごみ処理の変更点の確認 ~

確認ポイント：廃プラスチックの処理の現状と可燃ごみ化への変更理由（効果） ※廃棄物対策課資料提供

調査結果

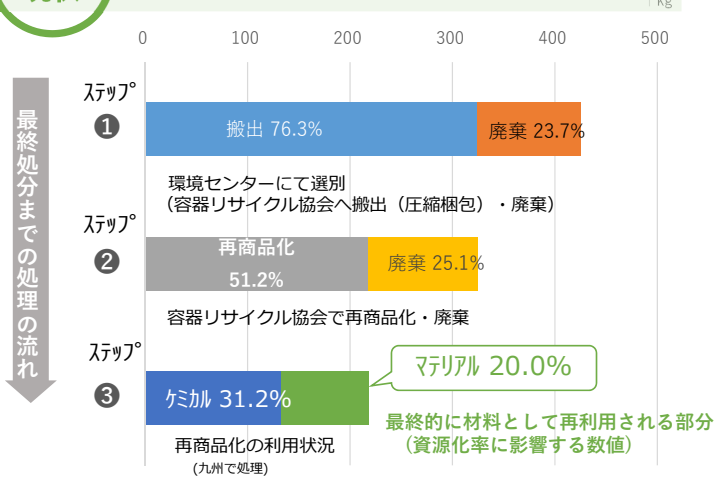
湖西市で回収されたプラごみの処理の流れやリサイクルの状況と、焼却施設再稼働後の主な変更内容やその理由等を調査。

なぜプラスチックを可燃ごみ化するの？

疑問

市の現状

- ・プラごみの処理の流れ
- ・リサイクル・廃棄の内訳（R3実績）

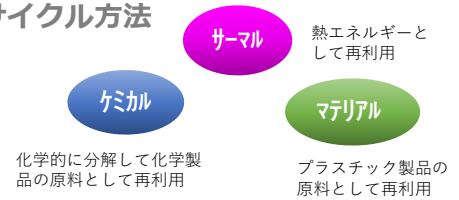


変更内容

R6.2焼却施設再稼働後の主な変更点

- プラごみの分別方法（資源ごみから可燃ごみへ）
 - リサイクル方法（マテリアルリサイクルからサーマルリサイクルへ）
- 材料利用 熱エネルギー利用

プラスチックのリサイクル方法



プラスチック可燃ごみ化にする理由

- プラリサイクルは高コスト（年間約3,000万円）の割にはリサイクル率が低い。（全体の20%）
- 基幹的設備改良工事によりCO2排出を抑制する環境負荷に配慮された高機能設備に改修される。
- プラリサイクルは全国的にサーマルリサイクルが主流。

理由

など

プラスチック可燃ごみ化による効果

- 焼却炉の安定稼働（プラスチックが高カロリーの助燃材となる。）
- 蒸気利用による発電、余熱利用（環境センター・アメニティ） など

効果

プラスチック可燃ごみ化による課題

課題

【委員会の所感】

- リサイクル分別は市民生活に浸透しているため、廃プラスチックの可燃ごみ化は市民の理解を得るための方策をとるべき。
- プラスチック可燃ごみ化への市の方針がプラ新法に対して問題はないか市民への説明が必要。（指定12品目の取り扱いはどうなるか。） など
- プラスチック等の可燃ごみの種類が増えることによりごみの容積はさらに増加すると考えるが、現状のごみステーションが本当に問題なく対応可能かどうか地元とも検討が必要。

調査③ ごみ出しルールの変更について

ごみの出し方どう変わる？
市民への周知は？
ごみステーションの対応は？

疑問

確認ポイント：新ごみ出しルールの試行（R4.1～R4.2）結果から見える課題

焼却施設再稼働によりごみ出しルールの変更（下表参照）が予定されている。市内の3つの収集区域のうち選定された自治会における新ごみ出しルールの試行（R4.1～R4.2実施）の検証結果報告を受けた。概要は以下のとおり。

試行結果報告の概要

（廃棄物対策課提供）

【実施場所】

湖西A地区 / 湖西B地区 / 新居地区の各1自治会

ごみ出しルールの変更点

現ルール		排出日		場所		
		湖西	新居	湖西	新居	
ごみ	燃やせるごみ	週2		ごみステーション		
	燃やせないごみ	隔週1				
資源物など	剪定枝・竹・草	週1		資源物回収拠点 ごみステーション		
	プラマーク品					
	白色トレイ					
	ペットボトル					
	飲料水缶	常時	隔週1			
	びん					
	スプレー缶・ライター カセットボンベ	月1				
	乾電池					

新ルール		排出日		場所	
		統一	湖西	湖西	新居
燃やせるごみ	週2	週2	ごみステーション		
剪定枝・竹・草					
プラマーク品					
白色トレイ			ごみステーション		
燃やせないごみ	隔週1	隔週1	ごみステーション		
ペットボトル	週1	週1	ごみステーション		
飲料水缶	隔週1	隔週1	ごみステーション		
びん					
スプレー缶・ライター カセットボンベ	月1	月1	ごみステーション		
乾電池					

※廃棄物対策課資料提供

■変更箇所

課題	検証結果
収集日程（頻度）	今回試行の頻度で問題なし
ごみステーションの容量	今回の試行場所は比較的広い箇所 で問題はなし。 ごみ籠のないステーションの 検証は必要。 自治会からの要望により単管 パイプ製のものに順次変更する。
ごみ袋のサイズ	45ℓサイズのごみ袋は必要
資源物回収の 利便性向上	より近くで出せるという点で利 便性向上。
資源物回収容器 の検証	× 折り畳みコンテナ ○ 重なるコンテナ・ネット +コンテナ

ごみ出しルール変更に伴う

課題

【委員会の所感】

- 外国人居住者が多い地区、市街化区域（街中）での検証が必要。
- コンテナ容器の配置が困難なステーションへの対応は。
- ごみ袋サイズアップに伴うごみステーションの容量の検証が必要。
- 新ごみ出しルールについて市民への周知を十分にすること。

調査④ 各種計画の目標値 ～湖西市のごみの現状と目標値の考え方～

確認ポイント：湖西市のごみの現状 ※廃棄物対策課資料提供

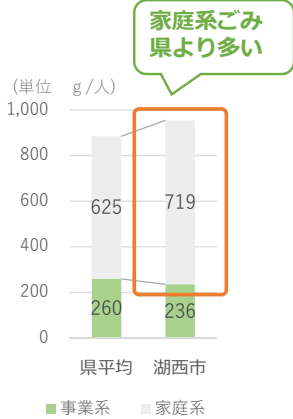
調査結果 環境基本計画、廃棄物処理基本計画の目標値の考え方を理解するため、目標値の基礎となる湖西市のごみの現状と特徴について確認した。概要は下図のとおり。

目標値の考え方は？

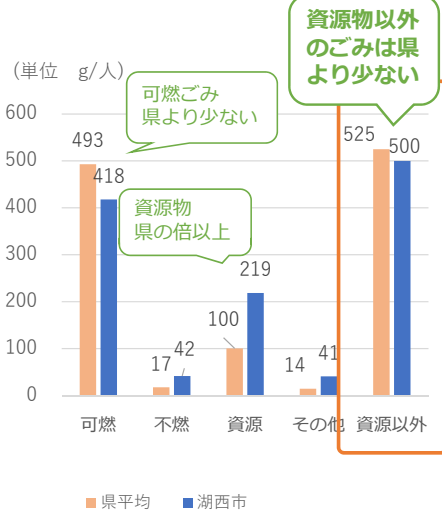
疑問

市の現状

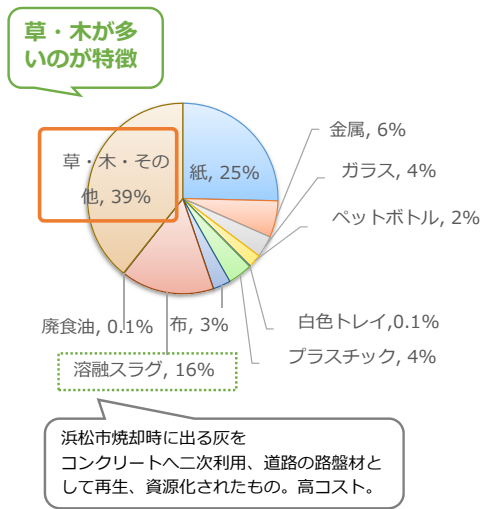
■市民一人当たりのごみの排出量 (R1)



■家庭系ごみの内訳 (R1)



■資源物(家庭系+事業系) (R1) の内訳



資源ごみの現状

- 湖西市は自前で回収する資源物の量が多く、資源化率が他市と比較して高い。
- プラリサイクル率は回収した内の約20%程度しかない。
- 廃プラスチック、草木の一部をR6.2から可燃ごみとして焼却に回すため、資源ごみ量と資源化率は下がる。

資源ごみの課題

【委員会の所感】

- 資源化率アップの対策が課題となる。
- プラスチックの分別がなくなるため、リサイクル率の向上のために市民ができる取組は何か。

環境基本計画におけるごみ処理関係についての目標設定の考え方を調査した。

疑問

ごみは減らせる？ 資源化率はどうなる？
市民ができることは？市の取組は十分？

調査結果

一般廃棄物処理基本計画(ごみ処理編)との関連、目標値の経年推移(R1(現況)~R14までの推移と根拠)を聞き、目標値としての妥当性などを確認。

環境基本計画の目標年度(R14)の値は一般廃棄物処理基本計画(ごみ処理編、H30.3策定)を延長したもので、値の推移と根拠は右図・次ページの図とおり。

【目標値1】

廃棄物排出量(市民一人1日当たり) = 総排出量 ÷ 人口 ÷ 365日

★目標値の設定の考え方
「総排出量」は、家庭系ごみと事業系ごみと集団回収量の合計。

家庭系ごみ量で市民一人当たりの廃棄物排出量を算出すると、年間1gずつ減少する。



根拠

家庭系ごみ
人口減とともに減少

事業系ごみ
近年の増加推移を反映

総排出量(一人当たり)
年間1gずつ増加

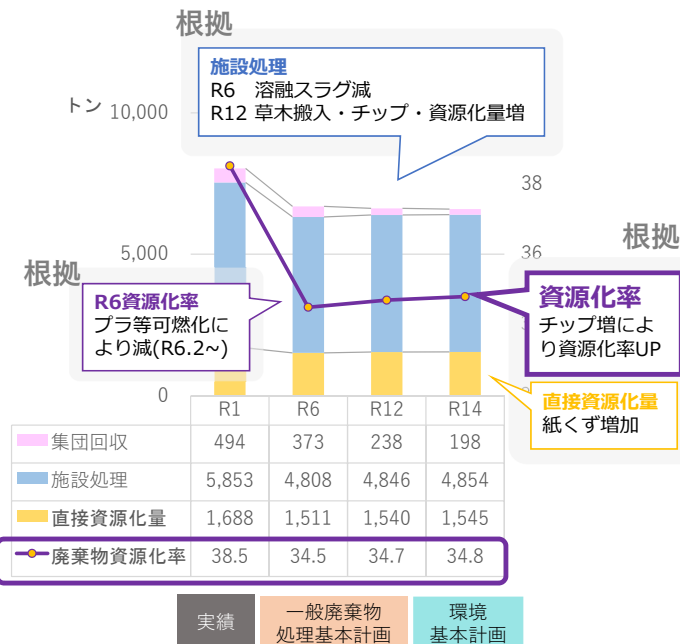
環境基本計画

基本方針2「資源環境」の目標値 ※抜粋

目標値	R1	R14
[1] 廃棄物排出量 市民一人1日当たり	955g	935g
[2] 廃棄物資源化率	38.5%	34.8%
[3] 廃棄物最終処分量	504t	1,081t

【目標値2】

廃棄物資源化率 = 総資源化量 ÷ 総排出量



根拠

施設処理
R6 溶融スラグ減
R12 草木搬入・チップ・資源化量増

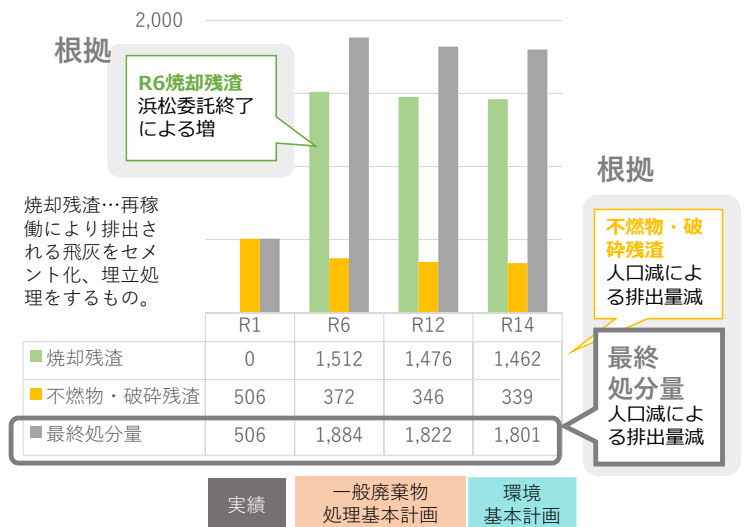
R6資源化率
プラ等可燃化により減(R6.2~)

資源化率
チップ増により資源化率UP

直接資源化量
紙くず増加

【目標値3】

最終処分量 = 焼却残渣 + 不燃物・破碎残渣



根拠

R6焼却残渣
浜松委託終了による増

焼却残渣…再稼働により排出される飛灰をセメント化、埋立処理をするもの。

根拠

不燃物・破碎残渣
人口減による排出量減

最終処分量
人口減による排出量減

【委員会の所感】

- 目標値(1)「廃棄物排出量（市民一人当たり）」は事業系と家庭系ごみの総量から一人当たりを算出しているが、目標値と成果の見える化が必要。
- 可燃ごみの種類増によりリサイクル率は低下してしまう。
- ごみ排出量減のための市民の取組は。
（生ごみの取り組みが必要だが市の対策は不十分）
- 市の負担を軽減をするためには、市民は何に取り組めばいいのか。

など

第3章 委員会の意見・まとめ

約2年間の委員会活動において、環境センター焼却施設再稼働に伴う市の各種取組等について市に丁寧な説明を求めてきた。

ごみ出しルール変更等による市民生活への影響や、今後起こりうる問題が最小限に抑えられるよう、また、市と市民が一丸となって様々なごみ減量等に取り組み、環境基本計画の目標が達成されるよう、委員会の意見としてまとめたので、当局に前向きに取り組んでいただきたいとともに、次期建設環境委員会においても今後の動向を注視していただきたい。

課 題	意見・まとめ (当局に取組を求めたいこと等)
ごみ出しルールの変更	<ul style="list-style-type: none">● ルール変更内容の市民への丁寧な説明● ルール変更目的・経過の市民への十分なPR● プラごみ、白色トレイの可燃ごみ化への変更理由の丁寧な説明 (資源エネルギーの有効活用等、市の方針が間違っていないこと)● ルール違反の是正・ルールの徹底● 現場(ごみステーション)の指導により違反者対策等の準備

17

課 題	意見・まとめ (当局に取組を求めたいこと等)
プラ新法への対応	<ul style="list-style-type: none">● 指定12品目の扱いの研究・回収の検討 (民間協力含む)
ごみステーションの対策	<ul style="list-style-type: none">● 外国人居住者が多い地区、市街化区域(街中)での検証● コンテナ容器の配置困難なごみステーションの対応検討● ごみステーション容量オーバーな箇所の調査対策と対応PR
市民の協力	<ul style="list-style-type: none">● 民間のプラリサイクル回収拠点の周知PR● 市民が取り組まざるを得ないような工夫・事例の研究● キーワード以外の生ごみの減量手段の検討 (食品ロス対策ほか)
計画の目標値	<ul style="list-style-type: none">● 事業系・家庭系ごみの各々の目標値を明確に (家庭の努力の見える化)● 他市の状況と比較した目標値の考え方の明示

18

第4章 調査研究等の経過

開催月日	内容
令和3年5月17日	委員長の互選（ほか）
6月21日	令和3年度主要事業について・現場視察
30日	委員会の活動計画について（ほか）
7月9日	新消防庁舎の建設について（消防本部）
20日	立地適正化計画について（都市整備部） 当局からの報告事項（環境部）
8月5日	環境センター焼却施設再稼働（ほか（環境部）
10日	調査研究テーマの選定について
10月5日	当局からの報告事項（消防本部）ほか
22日	環境基本計画について（環境部）ほか
28日	調査研究テーマについて
12月10日	当局からの報告事項（環境部）ほか

開催月日	内容
令和4年1月11日	先進事例等調査研究について
1月25日	当局からの報告事項（消防本部）ほか
2月1日	当局からの報告事項（環境部）ほか
3月28日	研究事例の調査について
4月18日	当局からの報告事項（環境部）ほか
5月12日	当局からの報告事項（環境部・消防本部）ほか
7月12日	当局からの報告事項（消防本部） 令和4年度主要事業について（都市整備部）
21日	当局からの報告事項（環境部）ほか
8月16日	当局からの報告事項（消防本部・環境部）ほか
10月12日	委員会活動のまとめについて
20日	市内現場視察（都市整備部）
11月10日	当局からの報告事項（環境部）ほか
14日	調査研究のまとめについて
12月20日	当局からの報告事項（環境部）
令和5年1月24日	市内現場視察（環境部）
27日	当局からの報告事項（消防本部・環境部）ほか

建設工事の進捗状況や施設の改修・設備更新等に係る各施設など市内現地視察を実施しました。



現場視察の様子

